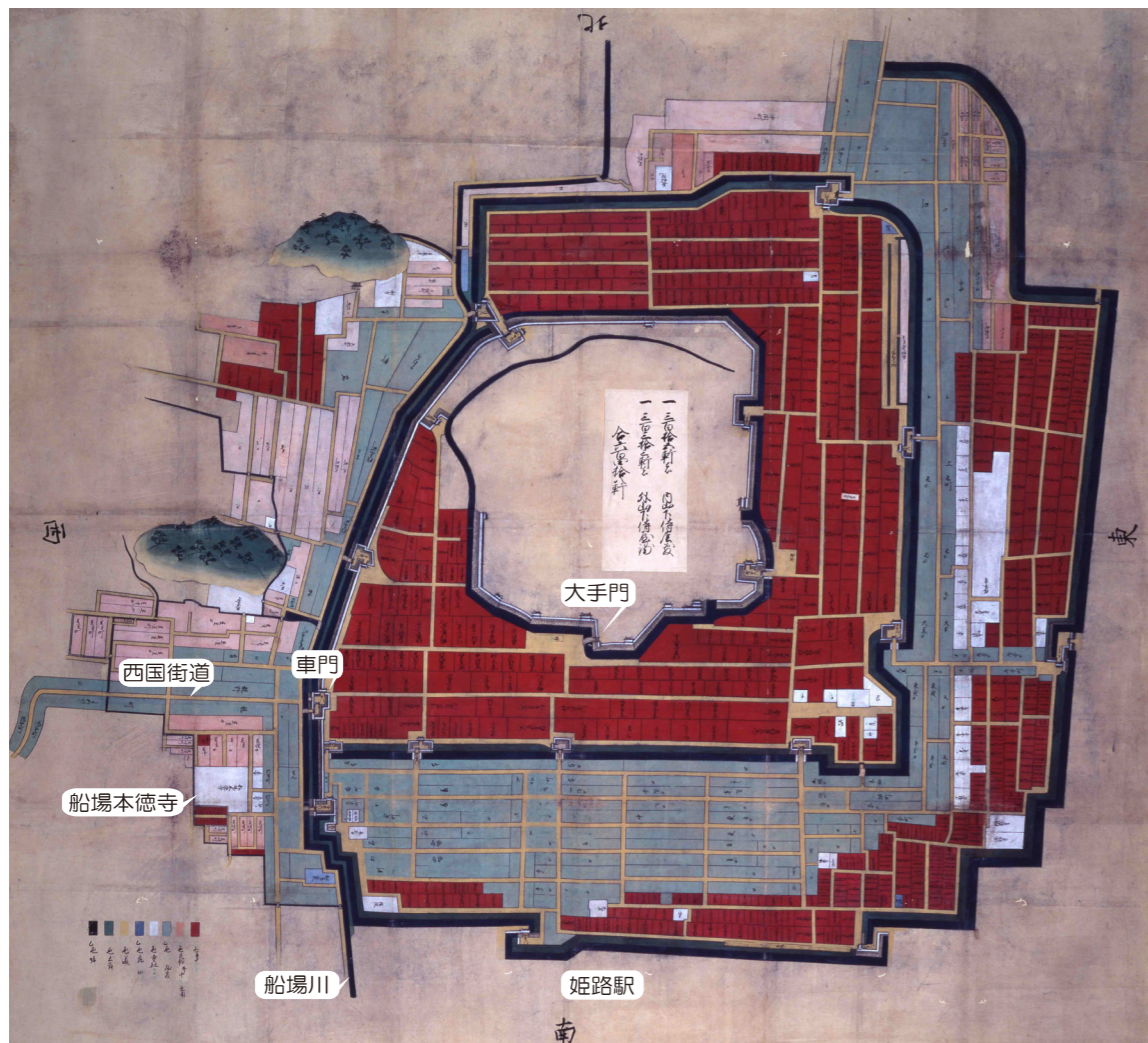


特別史跡姫路城跡 車門の石垣修理その1

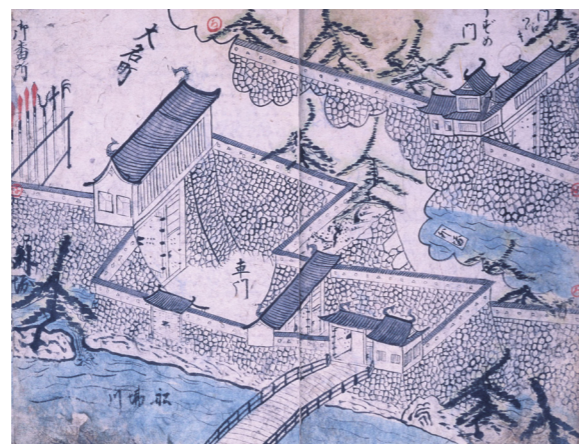
姫路市では、特別史跡姫路城跡 車門の一部で石垣修理を実施しました。平成7年度に内門西側中堀沿いの石垣解体修理と発掘調査、平成24年度・令和元年度には、内門東側にある合坂(石階段)の解体修理、令和2年度には内門の南側石垣の間詰石補充を行いました。



『姫路御城廻侍屋舗新絵図』〔慶安2年(1649)～寛文7年(1667)〕(姫路市立城郭研究室蔵)

1. 車門の概要

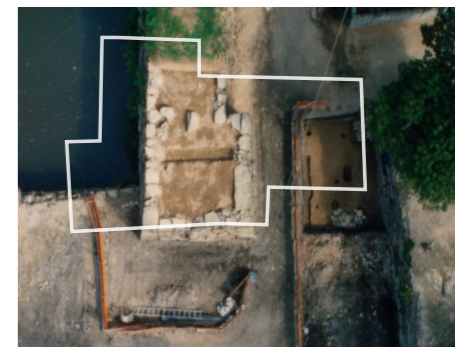
車門は、姫路城中曲輪に設けられた11箇所の門のうち、西南に位置します。普段は使用されませんが、西に流れる船場川を渡ると、岡山方面への西国街道に直結する主要な場所にあります。このため、内門、中門、外門と船場川へ降りる車道門の4つの門があり、内柵形と外柵形を組み合わせた厳重な二重柵形構造をしていました。建物は残っていませんが、内門は櫓門、中門と外門は高麗門、車道門は高麗門か埋門で外門には出番所が設けられていました。



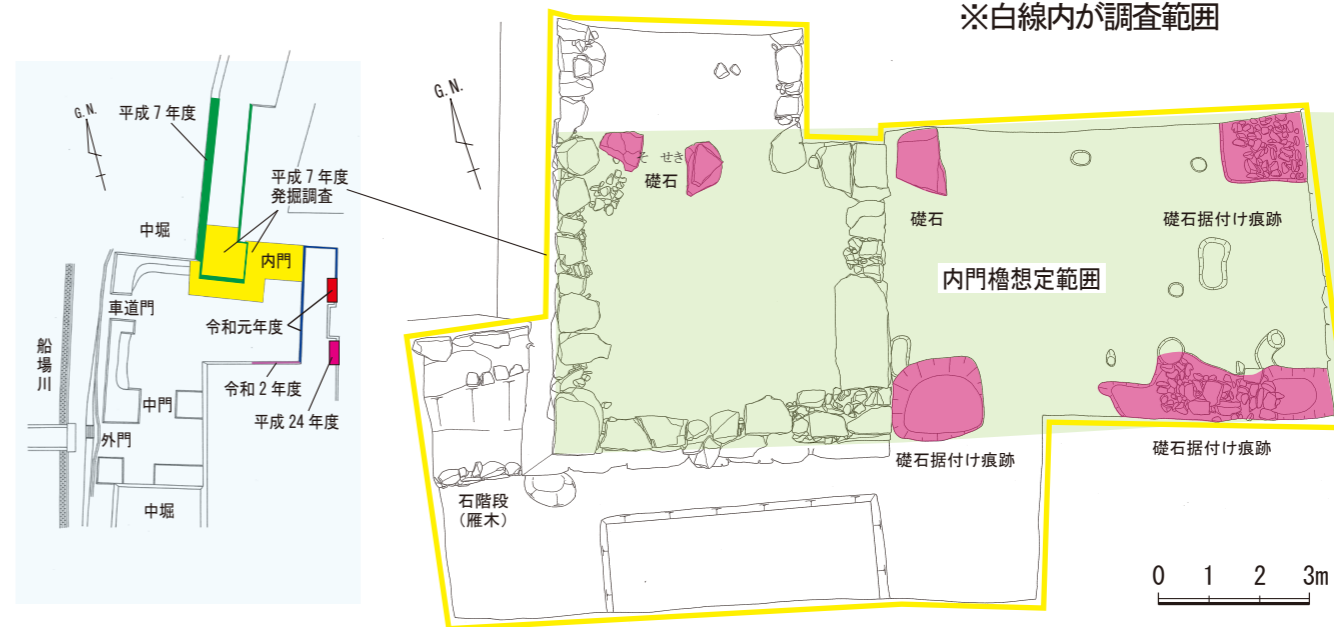
『大工源助倅 幾蔵図』に描かれた車門 (姫路市立城内図書館蔵 資料名『幾蔵図冊』より)

2. 石垣修理箇所と発掘調査

車門跡では、平成7年度の石垣修理に伴い、内門の西側高石垣上及び、石垣下部の発掘調査を行いました。石垣修理と発掘調査の範囲は左下図のとおりです。石垣下部では、1ヶ所から礎石が見つかり、他に3ヶ所の礎石据付け跡を確認しました。また、石垣上面でも礎石を確認し、絵図や『大工源助倅 幾蔵図』などに描かれた内門の存在を裏付けることができました。



発掘調査の空中写真(上が北)
 ※白線内が調査範囲



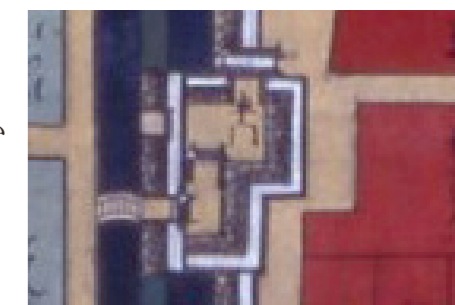
石垣修理・発掘調査範囲

発掘調査で確認された内門の痕跡 (平成7年度)

3. 車門石垣の築造時期

姫路城では、石垣の築造時期をI～V期に分けて編年しています。I期は、天正8年(1580)以降の羽柴秀吉時代に築かれたもので、自然石を積んだ野面積みです。II期は、慶長6年(1601)の池田輝政による築城期、III期は本多氏時代に築造された石垣で、IV期は江戸時代の改修、V期は近代以降の改修です。II期以降は、粗割りした石材を積んだ打込みハギが主体となります。

車門は凝灰岩の割石を主体とした打込みハギで、II期以降に築されました。ただ、池田氏時代の絵図には外柵形が描かれておらず、17世紀半ばの榊原氏の絵図には描かれていることから、III期以降に現在の構造になったと推測されます。



絵図に描かれた車門
 【上：池田氏時代・下：榊原氏時代】